

経営比較分析表

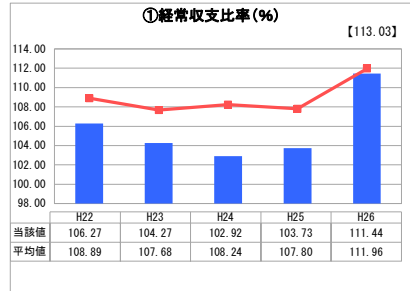
京都府 向日市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	69.70	98.67	3,645

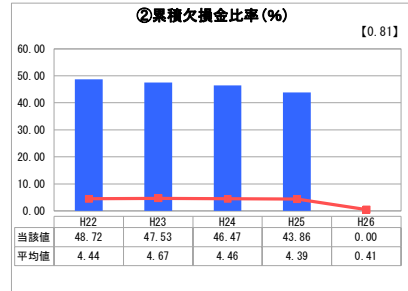
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,340	7.72	7,038.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
53,745	7.67	7,007.17

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

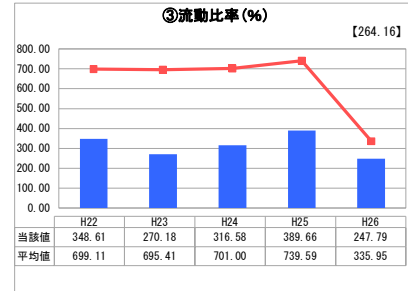
1. 経営の健全性・効率性



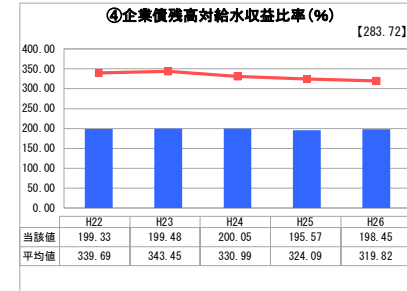
「経常損益」



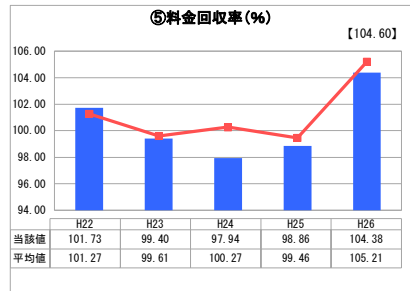
「累積欠損」



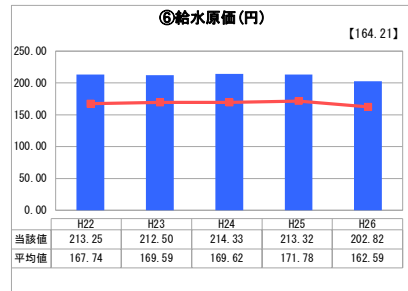
「支払能力」



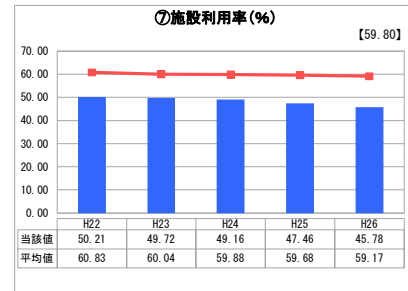
「債務残高」



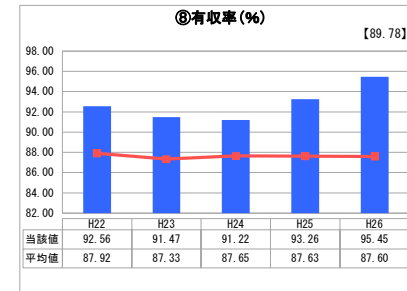
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

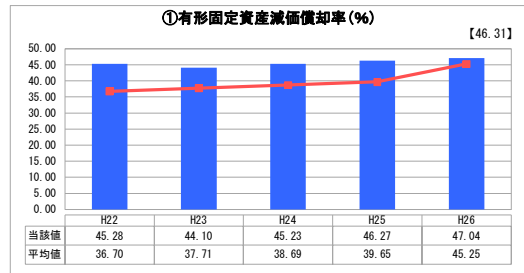


「施設の効率性」

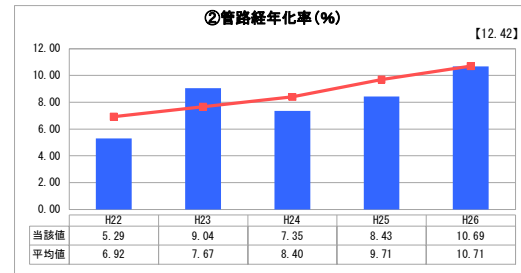


「供給した配水量の効率性」

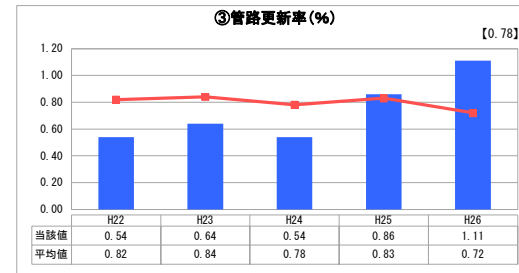
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%以上となっているが、累積欠損比率が高く、厳しい経営状況が続いている。平成26年度に累積欠損金を解消したが、新会計制度導入による長期前受金戻入益の計上のためであり、状況は変わらない。企業債残高は類似団体と比べて低いが、今後の施設更新に伴い増加が見込まれる。給水原価は受水費の負担が大きく、類似団体と比較して高い。有収率は類似団体と比較して良好であり、これからも向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率が高く、管路の更新時期を迎えている。平成26年度からアセットマネジメントに取り組み、計画的に更新を進めており、管路更新率は向上している。

全体総括

給水収益が減る一方で、老朽施設の更新など施設整備にかかる多額の費用が必要となることから、厳しい事業運営が予測される。アセットマネジメントの実践により計画的に施設の耐震化や更新に取り組むとともに、適確に経営状況を把握し、健全な事業運営に努めなければならない。

※普及率は98.67%となっていますが、推計人口と住民基本台帳人口との差によるものであり、本市の水道事業の普及率は100%です。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。